

- 第1位 (8票) No.32 三友周太《トレンミュージアム (100色100語) 奥から見たカラー配色がきれいなので…。／三友さんの作品らしくなかったから／動きが美しい、止まっているのに—／きれい／奥側から見たときのキューブの色に驚いたので。／グラデーションの美しさ、並べる労力・根気
- 第2位 (7票) No.1 浅見俊哉《現在の青図》ひきつけられた／いつも FB を見えます。広島での作品は素晴らしいです。今回は、それをもっと発展させ、可能性を広げてます。応援します／強度やエネルギーがある。／本箱 写真は私は良いと思った／パフォーマンスを見ることができました。感想をうまく書けないのですが気持ちを動かされました。何度も思い出す作品になると感じました。／体のしなやかさに見入ってしまいました。／体のしなやかさがすごい
- 第3位 (6票) No.4 加藤こどもの造形教室 (25人合作) 《名前立国》いろんな国があり楽しいから／子ども達の思いが形になって、うったえかけられました／ゆめの国だからいいと思いました。／なんとなく
- 第3位 (6票) No.36 矢花俊樹《旅に誘う虫たち》お見事!! 職人技!!／細くて、ほんとに動きそうだから。／生きているようすごかったから／細かくリアルですごい／リアルできれいでした。
- 第5位 (4票) No.31 三木祥子《Indistinguishable Boat, 2018》震災で被災したとき、ネット環境、電波環境にないとき、新聞が貴重な情報源だったという。ニュースは魚のように尾鰭、背鰭がつき、大きな海に流れていく。しっかりした船で善い魚を捕まえていきたい／福島のこと、とても大切なことだと思いました。／心に響きました!!／コンセプトがストレートなのがいい。SMFの展示は、全体に、言葉いじりが過ぎる印象が強く、コンセプトいじりで終わっている作品が目立つ。作品そのものは力があっても、イデオロギーの説明が前面に出てしまい、視覚表現なのか思想運動の宣伝なのか分からなくなってしまっているケースもあった。三木さんの作品は、試作的印象もあり、同じコンセプトで更に存在感が高まる発展性を感じた。
- 第5位 (4票) No.21・22 西尾路子《solid@plane : // 22 猫・描 2017》《solid@plane : // 23 大・犬 / miniature model / 2018》猫 描→アートです。いい作品で楽しい!／家に欲しい／すわってみたい!!／パフォーマンス+作品=芸術 いつもありがとう。
- 第7位 (3票) No.12 谷川潤《たにじゅん日記～the diary of TANIJUN～》町のいろいろなお店がえがかれせつ明や人気商品がのってるので行きたくなりました。／丁寧な作品作りが良い。製本されたもの楽しみです。色使いが好き。／絵がとても素敵だったので。
- 第7位 (3票) No.16 とうゆう《だい》「だい」というシンプルな題名から、興味を抱き、ワクワクしながら楽しめた。色がきれいだった。／だいがこんなに続くなんで。
- 第7位 (3票) No.35 矢花俊樹《84 children》みなが楽しくなる／子どもの学年の作品
- (2票) No.6 木村昭司《風景 Collection》透명한風景感じる、私もスケッチ大好きです
- No.11 田中清隆《方法装置》アイデアがおもしろい。光と景がいいです。光と影の面白さ、影のゆらぎ
- No.13 DamaDamTal《クウのキオク》ダンスパフォーマンスは何度か道すがらに見た事があったのですが、ゆっくり落ち着いて見て、凄いと思いました。作品をダンスや心で表現する新しい方法のような気がしました。伝わり方もさまざま、素晴らしかったです。／場所性を活かしたパフォーマンスが、非常に面白かった。
- No.14 チームパワーワード《Circlight Communication》柔らかい白いドレスとLEDの対比が良いですね。惜しむらくはムービーが見づらいのと点灯する様子が現場で見られないことでしょうか。／一番印象にのこっていて、すてきだったから
- No.20 中村隆《今年の干支は、きたうらワン!》かわいい
- No.34 みやうか《星に願いを》形のバランスと光のコラボが美しい
- (1票) No. 8 佐藤仁美《SENSE OF FIELD》幾何→自然→合体 楽しみです
- No.10 清水和乃《浮島》(コメントなし)
- No.18 戸口未貴《(タイトル未定) 2018年の挑戦と希望のストーリー》未来と希望を感じました。
- No.29 星野佑太《個：うつわに宿る Unique》細やかな作品が無造作に置かれていたのが何ともこれから楽しみです。
- No.33 みやうか《夢見る樹》(コメントなし)
- No.37 社会芸術/ユニット・ウルス《“野良の藝術” 里山の現場 2017 活動報告展》炭の臭いがなつかしい。ファーム・インの風景を思い出す
- No.38 横田龍堂《DIGITAL x ANALOG》(コメントなし)
- (会場全般) 心が広がってゆく 夢のある世界でした

ご投票ご協力ありがとうございました!

「まえがき」を担当された青山恭之さん同様、ぼくも建築の設計を生業としている。

みんなが建物をすばらしい作品としてつくれば、おのずからすばらしい街なみが現れてくるはずだ、若い頃は単純にそう考えていた。しかし必ずしも、というよりも、必ずそうっていないのは、「まえがき」の「場所と表現をめぐる旅」で青山さんが指摘された「場所」の課題に踏み込めていないからだろうか。だが、そうした束縛からはなれたところでアートは輝いているような気がする(おそらく青山さんも同じように思っているのではないだろうか)。

庭を含み敷地までのデザインが建築で、その中に建つ家具のような器を建物と呼ぶ。僕はそう思っている。だから建築は、場所や時代のしがらみからアートにはなり得ず、技術の範疇にとどまってしまう。それはそれでいいと思うが、技術の額縁の中で収める建物だけに思いを込めれば、あるいは建築家でもアーティストの仲間入りできる手がかりをつかめるのかもしれない。あの堀口捨己だって、都市にある様々なしがらみから離れてこそ純粋な建築をつくることができると紫烟荘をつくった感想を(「建築の非都市的なものについて」『紫烟荘圖集』)で記している。

画家が別所沼で額縁を購入するように、無責任と誹られようと、気心の知れた庭師に額縁づくりをまかせられれば建物づくりに専念ができて、もしかしたら僕でもアーティストになれるかも知れない。

ではどんな建物を思い込めたいのか。それはやっぱり色気のある建物だろう。宝船展が終わってから、隣に展示した佐藤仁美さんと意見が一致した(と思っている)。彼女もはじめは武蔵美の建築で学んでいて、青山さんの後輩である。で、「あとがき」が「まえがき」を話の種にイジっていてどうするんだ、とつつこみが入ったところでこの話は終わりにしよう、これからのディベートは「アート長屋」の中にある井戸端に場を移して行えばよい。

■

いずれこの記録集も「アート長屋」に収蔵される。「アート長屋」はぼくたち SMF が運営するアンデパンダン展である。アートに関心をもつ誰もが、ネット上の長屋に敷金家賃なしで部屋を借り、そこで自分の作品や夢を表現することができる。この長屋には隣接して「アート物置」と呼ばれる蔵が建ち、そこには書架もあり、この記録集をはじめ様々な作品、報告がしまわれたアーカイブズでもある。長屋には井戸もあり道行く人も入居者たちもそこに集い、住戸の作品や蔵の中から話の種を引っ張り出して井戸端談義に花を咲かせる。そんなヴァーチャルコミュニティを目論んで発足した「アート井戸端」だが、まだ十分に活用されているとはいえない。

「アート長屋」を建設するはるか前、SMFが発足した翌年から始まったのが「ラウンドテーブル」である。年に一度、アートを表現する側ばかりではなく、企画する側、楽しむ側、様々な立場からアートに惹かれた個人や団体が、車座になり、あるいは円卓を囲み(囲むのが炬燵だったこともあったが)、^{face to face} 相対で、作品を語り、夢を語り、思いを語り合うひとときを持つ。

「宝船展」はこの「ラウンドテーブル」と「アート長屋」を両親として産まれたインスタレーションである。「アート長屋」がいまだ成功にほど遠く「アート井戸端」も失敗寸前のところを彷徨っていて、これからの成功を願うとすればこちらが母親になるのだろう。

■

さて肝心の「宝船展 2018 @ MOMAS」。この企画展は3回目を迎えたが、これまではネット上の「宝船展 on the net」を経て、埼玉県立近代美術館内で現実の「宝船展 @ MOMAS」へと続いたのだが、今回は諸般の事情から前者を省略し、後者のみで勝負した。にも拘わらず前回は上回る出展者が集まったことは嬉しい予想外だった。

そして感想をもうひとつ。入場してほどなく、三友周太さんが精魂込めて並べた大量のキューブ、整然としながら僅かにゆらいで色気を醸し出す配列の群れに、サッカーボールを蹴り込みたくなる衝動を会期期間の5日間、我慢し続け、そしてそれを誰かやらないかなと期待し続けていたのはぼくだけだったろうか。

■

「あとがき」を任されながら、相も変わらず、とりとめのない徒話になってしまいました。次のページに、ぼくたち SMF の履歴書を掲載し「あとがき」に代えることでお許しをいただき、そして、この誌面を借りて、出展者の方々、鑑賞に来て下さった方々、そして一緒に主催をして下さった埼玉県立近代美術館のご厚意に、SMF一同、厚く御礼申し上げます。